

本セッションは、健康関連微生物に関する話題を、上水道、下水処理水再利用、環境水、浴室水等の幅広い対象から論じたものであり、研究対象の広がりを感じると同時により深い議論が必要と改めて感じさせられたセッションであった。

1-H-15-4 は、全国の水道水源におけるクリプトスポリジウムおよびジアルジアの実態調査の結果報告である。手法としては通常の顕微鏡観察に加え、リアルタイムPCRを用いた遺伝的手法も併用し、比較を行った。その結果、検出は国内広範囲であることがわかり、その検出箇所および方法の詳細についての質問がなされた。

1-H-16-1 は、孔径 0.1 μ m のセラミック膜とオゾン処理を組み合わせた下水処理水高度再生処理に関する実験的検討である。セラミック膜とオゾン処理それぞれ単独、さらに両者を用いその順番を変更して大腸菌およびファージの除去率を比較した。その結果、両者を用いた場合に除去率は大きくなった。そのようなシステムの評価に関する質問がなされ、多様な観点からすべきとの回答がなされた。

1-H-16-2 は、タイの大規模洪水における糞便由来汚染の状況報告と、そのような場合への適応策に関する検討報告である。現地の状況に関して豊富なスライドで説明がなされ、イメージのつかみやすい発表であった。調査結果より、長期浸水時の水質はほぼ定常と見なせること、項目毎の相関が希薄であることが示され、衛生インフラの必要性が述べられた。

(1-H-16-3 は欠番である。)

1-H-16-4 は、フミン酸を添加した環境水の濃縮におけるRT-PCRの阻害に関する検討である。各種フミン酸を河川水および海水に添加し、ウイルス濃縮操作を行った後にポリオウイルスを添加し、その回収率を求めた。その結果、ある範囲の高分子フミン酸のウイルスと同時の共濃縮、その結果としてのウイルス定量阻害が、強く示唆された。

1-H-17-1 は、設定したシナリオにおける塩素消毒を行った浴槽水のレジオネラ感染とトリハロメタンの発がんリスクを検討した発表である。レジオネラの実測値に基いて気道経由の暴露を仮定して重症肺炎のリスクを、トリクロロメタンについては実測値に基いて気道および経皮暴露を仮定して肝臓ガンのリスクをそれぞれ算定した。会場からは、リスク算定方法に関する疑念が出され、議論が交わされた。

(立命館大学 神子 直之)